

令和3～5年度 県総合教育センター提携研究について

鹿児島県立松陽高等学校

I 研究主題

生徒に身に付けさせたい資質・能力を教科等横断的に育成する研究

—目標・指導・評価の一体化を実現する取組を通して—

II 3年間の研究計画

年度	主な内容
令和 3年度	・ 生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化と共有，単元配列表等の作成 ・ 生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための課題設定の研究と開発 ・ 研究内容に基づいた授業の公開，実践事例や研究内容の発表
令和 4年度	・ 教科等横断的な視点の単元計画や評価問題の作成 ・ 生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための評価方法の研究と開発 ・ 研究内容に基づいた授業の公開，実践事例や研究内容の発表
令和 5年度	・ 生徒が身に付けた資質・能力の検証 ・ 2年間の研究及び検証結果を踏まえた更なる指導と評価の工夫・改善 ・ 研究内容に基づいた授業の公開，実践事例や研究内容の発表・研究成果の検証，まとめ

III 研究の成果と課題

令和3年度は，生徒に身に付けさせたい資質・能力を教科横断的に育成するために，「学びのグラウンドデザイン」や「コンピテンシー重視のシラバス」，「単元配列表」を作成した。これらを作成することと「パフォーマンス課題」を設定することにより，1つの単元で生徒に何ができるようになってほしいのか，具体的に考え，授業を計画するようになった。また，職員が授業を計画する際に，自分の教科だけでなく，他教科や学校全体の教育活動について意識するようになった。SSTPによって，1枚の用紙で具体的な指導方法と評価を見通せるようになり，授業改善につながりやすくなった。

令和4年度は，形成的評価と総括的评价を計画的に行い，授業改善につなげていくために，「単元計画表」や「ルーブリック評価」を作成した。また，中間考査を廃止し，「振り返りの期間」を設定したことにより，評価方法の改善や授業改善につながった。

令和5年度は，「ルーブリックを用いた定点評価」に取り組み，単元あるいは教科で連続的に使用できるルーブリックを作成し，それを用いて定点評価を行った。ルーブリックを作成することにより，教科内で生徒に身に付けさせたい資質・能力を共有することができた。また，同じ評価規準で評価することから，教師自身が評価しやすくなり，生徒自身も評価規準を把握しやすく，資質・能力の育成と改善につながりやすい。

一方，定点評価では，評価段階が「A・B・C」であるため，生徒の細かい変容が読み取りにくいという意見もあった。また，今年度に入り，ルーブリックを作成し，定点評価を行ってきたため，時間が足りないという意見もあり，今後も継続して，取り組んでいく必要がある。